

人間関係における距離間（日本人の友人と韓国人の友人と接して）

文教育学部人文科学科4年

大石 絵里佳

1.参加の動機・目的

就職活動を終えて、夏休みを有意義に過ごしたいと思っていたところ、面白いプログラムがあると先生に勧めていただき、参加を決めました。また、英語と韓国語の習得が目的で参加しました。

2.成果

2.1 多文化交流実習Ⅰ

政治経済の授業は、背景知識や興味がなかったため、内容を理解するのが難しかったです。

2.2 多文化交流実習Ⅱ

韓国人の友人に、その日に習った韓国語を使って、メールすることで楽しく韓国語を学ぶことができました。私は初級からのスタートでしたが、3週間で内容の濃い授業を受けることができましたと思います。

2.3 ショートビジットで学んだこと

2.3.1 身体的な距離間

電車の中や買い物をする際など至る所で、韓国人の身体的な距離間の近さを感じました。例えば、電車で隣に座った人と体が触れ合うと、日本人であれば瞬時によけるところが、韓国人はそのことを気にも留めていないように感じました。また、韓国では、道を歩いていて、少しぶつかったくらいでは謝りません。私には、そのような韓国人の姿が堂々としているように見えました。逆に日本人は、小さいことを気にしすぎているようで、細部にまで注意を払わなければならない、小さくなっているように感じます。

2.3.2 精神的な距離間

韓国の友人はみんな本当に家族や友人を大切にします。それだけではなくて、連絡も半端ではないほどこまめに取り合っているように思います。相手がどこにいて何をしているのか、完璧に把握していないと心配なのだそうです。韓国の友人との食事をしていると、必ずオンマー（母親）から電話が来ていました。友人との電話でも、一言目に「今どこにいるの？」と聞きます。私が、会いたいと言えば、いつでも会いに来てくれました。どんなに忙しくても、友人のために時間を作って会いに来てくれるのです。中には、こうした人間関係をわざわざいいと思う人もいるのかもしれませんが。しかし、私は愛情たっぷり包んでくれるような韓国人のぬくもりが大好きです。また、彼女たちは常に自然体でいてくれるので、私自身気を使わずに自然に接することができます。日本人との間では、すぐく疲れます。取り繕った人間関係。本当は思ってもいない言葉で会話して、雰囲気壊すまいとする日常。

私は、韓国が非日常であるため、少しの間居心地が良く感じるのかもしれないと考えていました。しかし、この一か月の滞在期間中、日本人と韓国人と同時に付き合ってきましたが、日本人の前では自然体でいられない自分がいました。日本の友人には自分の意志や考えを押し殺して付き合っていたところがありました。それは、多数の意見に沿わなければ雰囲気を悪くしてしまい、周囲の人々の気分を害すという結果を招いてしまうからです。周囲に合わせ、共感することが悪いことだとは思いません。共感を大切にす

る文化だからこそ考えをまとめることができ、一つの目標に向かって協力できるのだと思います。ただ私にはそれが、ときに窮屈に感じてしまいます。

2.3.3 韓国の若者の間に広がる個人主義

私は、韓国滞在期間中に卒業論文で韓国の友人にインタビューをしていました。その中で、韓国人の若者にも最近日本と同様のワリカンが広まっており、それは韓国人の若者の間に個人主義が広がっているからだという興味深い話を聞きました。実際に韓国の友人と衝突した出来事があります。韓国の友人3人と私とで夕飯の約束をしていました。その日、一番仲がよくて、毎日のように会っている友人の恋人がフランスから6か月ぶりに帰国するというので、私も会ったことがある人だったので、顔を見せに来ることになりました。他の友人には内緒の恋人だったので、私に会ったらすぐに帰るという話になりました。そしてしばらく時間が経ったころ、一番仲のいい友人から、「今日体調が悪いので、私も少し顔を見せたら食事をせずに帰る。」というメールが来ました。ここまでは、残念だけでしょうがないと思っていたのですが、友人と恋人と3人で会ったとき、とても友人の体調が悪そうには見えませんでした。そのとき、私は非常にさみしい気持ちに襲われました。もし、彼女が6か月ぶりに再会した恋人と一緒にいたいのなら、体調が悪いなどごまかしたりせずにどうして本当のことを言ってくれなかったのだろう、私が日本人だから気を使わせたのだろうか、友人の存在がどんどん遠くなっていくような気がしてさみしくなりました。この出来事が個人主義の延長にあるとは言えないかもしれませんが、相手のことを気にしすぎていて、気分を害さないように気を使っているところが、彼女たちらしくないのではないかと思います。考えや意見をはっきり言ってぶつかり合うところに惹かれていた私は、彼女に対しても自らそのように接していましたし、気を使わない何でも言い合える間柄だと思っていました。なので、今回の出来事は、よそ者扱いをされた気分でした。

2.3.4 韓国人女性と日本人女性

韓国の友人との会話の中で、男性から見た韓国人女性と日本人女性という面白いテーマがありました。その友人は、日本へ行った経験から語ってくれました。彼女は韓国では、とてもお洒落で女の子らしく見られ、よく男の子からももてる方だそうです。しかし、日本人男性から生まれて初めて言われた衝撃の言葉が、「男っぼい」だそうです。彼女自身一番驚いていました。韓国では、女の子らしいで通用するのに、日本では男っぼいになってしまうのです。彼女のどのような部分が男っぼいと言われたのでしょうか。彼女は、物事もはっきりといい、周りに合わせて動くのではなく、自分の意思に従って動きます。このような性格は男っぼいのでしょうか。その答えは定かではありませんが、彼女は日本では、男性に恋人の対象にはされずもっぱら友人としてしか見てもらえなかったと言います。日本人の男性は、おとなしくて、従順な女性を好む、というのはよく言われていますが、ここでもそのことを思い出しました。

3.まとめ

まず、反省点として自分の英語能力が低かったために授業についていけなかったり、海外の友人との交流がうまくできなかつたりすることが挙げられます。もっと勉強しておけばよかったと、大変後悔しました。したがって帰国後、英会話の学校へ行こうと決意を固めました。早速、説明会への参加を決めています。また、ただ通うだけではなく、2月に英語を使う機会を設け、それまでには形になるように、自分を鍛えなおしたいと思っています。その2月に英語を使う機会というのは、韓国人の友人との1か月のヨーロッパ旅行を計画しています。長期旅行には、喧嘩がつきものだと思います。2人でぶつかり合って、そ

れを乗り越えて、真の友情を築きたいと思っています。自分たちだけの手作り旅行です。うまくいくことばかりではないでしょう。またそこでも大きな成長を遂げて社会人になりたいです。

次に韓国語の習得に関しては、来学期からも継続して韓国語の履修をしたいと思っています。韓国語を学ぶ背景には、友達存在は欠かせませんでした。友人とのメールで少しでも韓国語が使いたくて、早くハングルが書けるようになりたくて仕方ありませんでした。この気持が言語を習得するうえでとても大切なのではないかと思います。ただ必要だから勉強するのではなく、誰とどのような形でコミュニケーションツールとして使いたいのか、その気持ちこそが言語習得を後押ししてくれる大きな要因だと私は考えます。だから、私の英語の習得も意味を持たせることができたので、きっと大きな成果があると信じています。

最後に韓国人の友人たちを見ていて、私ももっと人と人とのつながりを大切にしたいと思いました。うまく言葉で表現できませんが、彼女たちの友人への愛情は見ていると、温かい気分になります。私はなんて冷めているのだろうと気づかせてくれます。日本へ帰ったら、私もその愛情を家族や多くの友人に伝えたいです。家族や友人を本当に大切にしていきたいと思っています。